

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 早稲田SIAビル3階
Tel: 03-5286-6123(代表) Fax: 03-5286-6124
E-mail: office@tokyo.msf.org

www.msf.or.jp

活動 報告書

2014年 1月 → 12月

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本

Activity Report 2014

January-December 2014
Médecins Sans Frontières Japan





国境なき医師団とは

医療援助を第一に

国境なき医師団(MSF)は、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体です。危機に瀕した人びとへの緊急医療援助を主な目的とし、医師、看護師をはじめとするスタッフが、世界約70カ国で援助活動を行っています。1971年にフランスで設立されました。

独立・中立・公平

MSFは誰からも干渉や制限を受けることなく、助けを必要としている人びとの元へ向かい、人種や政治、宗教にかかわらず、分け隔てなく援助を届けます。

世論に訴える

援助活動の現場では、虐殺や強制移住など激しい人権侵害を目の当たりにすることもあります。MSFはそのようなとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言します。

Contents

国境なき医師団憲章/10の原則 The Charter of MSF/10 Principles of MSF	4
MSF日本 2014	6
会長・事務局長からの挨拶 Message from the President & the General Director	8
海外派遣実績 Field Staff Sent by MSF Japan	10
派遣地からの声 Voice from the Field	12
資金援助対象国 Countries Funded by MSF Japan	14
援助国からの声 Voice from the Field	16
財務ハイライト Financial Highlights	18
財務報告 Financial Report	20
事務局の活動から Updates from the Office	32
MSFワールドワイド 2013	33
活動地とネットワーク MSF Activity Map & Network	34
数字で見るMSFの活動 MSF Facts & Figures	36
謝辞 Acknowledgements	38

南スーダン

2011年の独立後、戦後復興が進展しないまま、2013年末から国内各地で激しい戦闘が拡大。医療も援助も著しく不足しており、戦闘のみならず栄養失調や感染症の増加も、多くの人命を危機に陥れている。



ユニティ州ルール。戦闘による避難生活で重度の栄養失調に陥り、MSFの栄養治療センターに運び込まれた2歳の男子。©Nick Owen/MSF

表紙: シエラレオネにMSFが設置したエボラ治療センターで、防護服を着用して活動する吉田照美看護師。©MSF

裏表紙: エボラの治療を受けて回復し、完治証明書を掲げるリベリアのママディー君(11歳)。©Martin Zingg/MSF



中央アフリカ共和国

武装勢力間の対立と暴力の激化による人びとの苦難は2014年を通じて続き、援助活動の困難も増している。4月にはMSFの病院が襲撃され現地スタッフ3人を含む民間人19人が亡くなる事件が起きた。



武装勢力の襲撃によって多くの人が避難を余儀なくされたウム州ボサンゴアの病院で、帝王切開手術を受けて新しい命が誕生した。

© Ton Koene

国境なき医師団憲章

The Charter of MSF

国境なき医師団は
苦境にある人びと、天災、人災、武力紛争の被災者に対し
人種、宗教、信条、政治的な関わりを超えて
差別することなく援助を提供する。

国境なき医師団は
普遍的な「医の倫理」と人道援助の名の下に
中立性と不偏性を遵守し、完全かつ妨げられることのない
自由をもって任務を遂行する。

国境なき医師団のボランティアは
その職業倫理を尊び
すべての政治的、経済的、宗教的権力から
完全な独立性を保つ。

国境なき医師団のボランティアは
その任務の危険を認識し
国境なき医師団が提供できる以外には
自らに対していかなる補償も求めない。

Médecins Sans Frontières provides assistance to populations in distress, to victims of natural or man-made disasters and to victims of armed conflict. They do so irrespective of race, religion, creed or political convictions.

Médecins Sans Frontières observes neutrality and impartiality in the name of universal medical ethics and the right to humanitarian assistance and claims full and unhindered freedom in the exercise of its functions.

Members undertake to respect their professional code of ethics and to maintain complete independence from all political, economic, or religious powers.

As volunteers, members understand the risks and dangers of the missions they carry out and make no claim for themselves or their assigns for any form of compensation other than that which the association might be able to afford them.

10の原則

10 Principles of MSF

- | | |
|--|--|
| 1. 第一に医療援助活動
Medical Action First | 6. 公平性
A Founding Principle: Impartiality |
| 2. 証言活動
Temoignage(Witnessing):
An Integral Complement | 7. 中立性の精神
A Spirit of Neutrality |
| 3. 医療倫理の遵守
Respect for Medical Ethics | 8. 義務と透明性
Accountability and Transparency |
| 4. 人権の擁護
Defense of Human Rights | 9. 自発的に参加する
現地活動スタッフからなる組織
An Organization of Volunteers |
| 5. 独立性への配慮
Concern for Independence | 10. 同じ目的の下に集ったメンバーが
運営する非営利の組織
Operating as an Association |

MSF日本

2014年の
活動実績と財務

ヨルダン

MSFは2006年から首都アンマンに外科専門病院を置き、イラクやパレスチナなど近隣国の紛争による負傷者を受け入れてきた。2011年以降はシリアから逃れてくる難民や負傷者にも各地で医療を提供している。



シリア国境から5kmのラムサ国立病院に、MSFは2013年に救急外科プログラムを開設。シリアからの負傷者に治療を提供している。

© Ton Koene

2014年、国境なき医師団は、エボラ出血熱の大規模流行という、世界が初めて直面した試練への対応に、最前線で取り組みました。

エボラ出血熱の流行発生がギニアで確認されたのは、2014年3月。国境なき医師団(MSF)には1980年代からこの疾病に対応してきた経験があるため、今回も直ちに現地に入り、専門治療施設を立ち上げ、現地政府を支援する活動を開始しました。しかし、その後も流行は止まらず、西アフリカの近隣諸国に拡大。2014年中に2万人以上が感染し、8000人以上が命を落とすという、未曾有の大流行へと拡大しました。

エボラは多くの死をもたらしただけでなく、家族や地域社会の絆に深刻な影響を与え、また、元々弱い現地の医療体制を機能不全に追い込み、現地に深い爪痕を刻む人道的危機になりました。流行は年を越えて続いており、2015年を迎えた現在も、まだ終息には遠い状況です。西アフリカのエボラ流行地では、MSFの現地スタッフ約3000名と各国事務局から派遣した外国人スタッフ約300名が、より多くの命を救うため活動に取り組んでいます。

世界も初めて経験するこのエボラ危機に、西アフリカの人びとと共にMSFが立ち向かうにあたっては、日本の皆さまからの温かいご支援が大きな力となりました。「エボラ出血熱・緊急援助」の用途指定寄付には日本から8億円を超すご支援が寄せられ、現地での活動に役立てられています。また、日本から2014年に延べ17人のスタッフが西アフリカのエボラ流行地に赴き、活動に貢献することができましたのも、日本社会のご理解に支えられたことです。改めてご支援に深く感謝を申し上げます。

一方、世界では他の大きな人道的危機も進行しています。南スーダン、中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国、イラク、シリアをはじめ、武力紛争が複雑さを増しながら続く地域では、人道援助のニーズは残念ながら2014年も減ることはありませんでした。安全を確保しながら必要な援助を届け、少しでもその範囲を広げようとするMSFの苦闘は続いています。今後も、皆さまがこの窮状に関心を持ち続けてくださることを願ってやみません。

そのような中でも、2014年に日本の皆さまからお寄せいただいた寄付金の総額が70億円以上、日本からのスタッフ派遣回数が計126回と、過去最大の貢献を達成したことは、心強い成果です。医療・人道援助やMSFの活動の意義、活動地で援助を待っている人びとにつながる日本社会の共感が、着実に増し、根づいていることを、実感した年でもありました。日頃よりご支援いただいている皆さまに深く感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。



© Morgana Wingard
西アフリカ諸国の エボラ出血熱流行を食い止めるため、最前線 で活動。



© Phil Moore
紛争で300万人近くが避難生活を送るコンゴ民主共和国で、基礎医療を届ける。



© Ashley Hamer
紛争で医療が不足する南スーダンでは感染症予防にも取り組み、集団予防接種などを実施。



© Gabrielle Klein/MSF
反政府勢力と政府軍の戦闘が激化したイラクで避難民に援助を提供。

In 2014, MSF was at the forefront of the response to the unprecedented global challenge of the Ebola epidemic

The Ebola outbreak was detected in Guinea in March 2014. MSF has experience with Ebola response extending back to the 1980s, so we immediately went on-site, set up specialized Ebola management facilities, and began providing support to local governments. However, the outbreak continued, spreading into neighboring West African countries. It developed into an unprecedented epidemic, with over 20,000 cases of Ebola and 8,000 deaths by the end of 2014.

Not only has Ebola caused many deaths, but it has also had a severe impact on the personal bonds within families and societies, and incapacitated already weak local health systems, creating a humanitarian crisis that has left deep scars in the region. Even into 2015, the epidemic continues unabated. Approximately 3,000 locally hired staff and 300 international staff of MSF continue to strive to save lives in Ebola-stricken areas of West Africa.

The warm support of the Japanese people has provided great assistance in MSF's efforts to work with the people of West Africa to overcome this unprecedented Ebola epidemic. People in Japan have provided over 800 million yen in donations designated for Ebola relief, assisting with MSF efforts in the field. In 2014, 17 staff members have also been dispatched by MSF Japan to Ebola outbreak areas to contribute to MSF activities. We wish to extend our gratitude to Japanese society for its understanding and support.

However, the world is still beset by major humanitarian crises. In areas with increasingly complicated armed conflicts, such as South Sudan, the Central African Republic, the Democratic Republic of the Congo, Iraq, and Syria, humanitarian aid needs grew in 2014. As we expand the scope of our aid efforts, we continue to struggle to ensure safety. We hope that the eyes of the world remain focused on the plights of the people in these areas.

In 2014, we received a total of over 7 billion yen in donations from the Japanese people, and dispatched 126 staff members. These were record contributions, for which we are deeply grateful. 2014 was a year which truly showed the increased engagement and dedication of Japanese society to providing medical and humanitarian aid, supporting the MSF's activities, and aiding those in need of assistance.

We wish to extend our profound gratitude for your support, and respectfully ask for your continued assistance.



国境なき医師団日本
事務局長
ジェレミ・ボダン
Jérémie Bodin
General Director
Médecins Sans Frontières Japan

© Ayako Hachisu



国境なき医師団日本
前会長
(2010年3月29日~2015年3月22日)
黒崎 伸子
Nobuko Kurosaki MD
Former President
Médecins Sans Frontières Japan
(Mar 29, 2010 - Mar 22, 2015)

© Toshiya Abe

Nobuko Kurosaki



国境なき医師団日本
新会長
加藤 寛幸
Hiroyuki Kato MD
President
Médecins Sans Frontières Japan

© Toshiya Abe

加藤 寛幸

MSF日本から派遣された87人が23の国・地域で援助活動を行いました

2014年、国境なき医師団(MSF)日本からは計87人のスタッフが、延べ126回、23の国・地域に派遣され、援助活動を行いました。

※リストは2014年に現地地で活動を開始した人が対象。

■ 日本からスタッフが派遣された国・地域
■ その他のMSFの活動国・地域



医療が不足する地域で栄養失調やマラリアの治療 [南スーダン/内科医]



エボラ出血熱治療センターにて患者を看護 [シエラレオネ/看護師]

レバノン

加藤 義和 (アドミニストレーター)

パレスチナ

田辺 康 (外科医)
三浦 由紀子 (麻酔科医)
吉野 美幸 (外科医)

リビア

萩原 健 (プログラム責任者、活動責任者) ※同国3回

南スーダン

安藤 恒平 (外科医)
伊藤 謙 (内科医)
井上 理咲子 (薬剤師)
岩川 真由美 (内科医)
岩本 琴路 (薬剤師)
長村 裕 (アドミニストレーター)
小野 不二雄 (ロジスティシャン) ※同国2回
梶村 智子 (ロジスティシャン)
加藤 寛幸 (医療チームリーダー)
加藤 義和 (アドミニストレーター)
北河 恵美子 (アドミニストレーター)
キム・ナムニョル (外科医)
キム・ユリ (看護師)
榊原 英朗 (薬剤師)
沢田 さやか (ロジスティシャン)
篠崎 秀博 (外科医)
白川 優子 (看護師)

チャ・ソナ (看護師)
土井 直恵 (手術室看護師)
中嶋 優子 (麻酔科医)
新田 由美 (薬剤師)
早水 真理子 (麻酔科医)
南 希成 (小児科医)
森田 光義 (医療コーディネーター)
山田 圭吾 (外科医)
ユ・スヒ (内科医)
吉田 由希子 (ロジスティシャン)
モリス・ナンジュル・ラムナップ (ロジスティシャン)
リー・ヒョミン (麻酔科医)
リー・ヤンスー (看護師)

ギニア

落合 厚彦 (ロジスティシャン)

シエラレオネ

大滝 潤子 (看護師)
加藤 寛幸 (小児科医)
キム・ナヨン (内科医)
倉内 瞳 (看護師)
道津 美岐子 (看護師)
中山 恵美子 (救急医)
西山 聡子 (アドミニストレーター)
室町 知隆 (薬剤師)
吉田 照美 (看護師) ※同国2回
吉田 由希子 (ロジスティシャン)

リベリア

井田 覚 (水・衛生管理)
ジョン・サンフン (内科医)
鈴木 基 (疫学専門家)
宋 正実 (サプライ・コーディネーター)
畑井 智行 (看護師)
松田 エルザ歌子 (看護師)

ナイジェリア

岩崎 直哉 (小児科医)

中央アフリカ共和国

菊地 紘子 (看護師)
久留宮 隆 (外科医)
田辺 康 (外科医)
室町 知隆 (薬剤師)

ウクライナ

吉田 照美 (看護師) ※同国2回

シリア

上平 明美 (医療チームリーダー)
神田 紀子 (薬剤師)
田岡 知明 (看護師)
村田 慎二郎 (活動責任者)
吉田 由希子 (ロジスティシャン)

アルメニア

高谷 紗帆 (内科医)

イラク

園田 亜矢 (IEC) ※同国2回

イエメン

小口 隼人 (プログラム責任者)
熊澤 ゆり (財務コーディネーター)
初雁 育介 (麻酔科医)
早水 真理子 (麻酔科医)

エチオピア

高橋 健介 (内科医)
道津 美岐子 (看護師)
畑井 智行 (看護師) ※同国2回
堀 正貴 (ロジスティシャン)
モリス・ナンジュル・ラムナップ (ロジスティシャン)
ユ・スヒ (内科医)

ウガンダ

岩木 幸太 (ロジスティシャン)
キム・アジン (財務コーディネーター)
的場 紅実 (薬剤師)

コンゴ民主共和国

田村 美里 (看護師)
辻坂 文子 (プログラム責任者)

マラウイ

的場 紅実 (薬剤師)



避難民の保健衛生向上のため健康活動を担当 [イラク/IEC]

アフガニスタン

幣原 園子 (医療チームリーダー)
城倉 雅次 (整形外科医)
馬庭 宣隆 (外科医、整形外科医) ※同国2回

パキスタン

安西 兼文 (外科医)
岩木 幸太 (ロジスティシャン)
大田 修平 (外科医)
小口 隼人 (ロジスティック・コーディネーター、活動責任者) ※同国3回
神脇 英治 (ロジスティシャン)
キム・アジン (財務/人事コーディネーター)
小島 穂奈 (助産師) ※同国2回
小林 直之 (外科医)
塩澤 幹雄 (外科医)
幣原 園子 (医療チームリーダー、病院ディレクター) ※同国2回
鈴木 貴士 (産婦人科医)
團野 桂 (内科医)
三好 響子 (助産師)
吉野 美幸 (外科医)
リー・サンヨン (産婦人科医)

カンボジア

上西 里菜子 (IEC)

フィリピン

岩本 琴路 (薬剤師)
塩澤 幹雄 (外科医)
篠崎 秀博 (外科医)
白川 優子 (看護師)
初雁 育介 (麻酔科医)
松本 明子 (副医療コーディネーター)

バブアニューギニア

ディディエ・ジャック・アサル (ロジスティシャン)
落合 厚彦 (ロジスティシャン)
都築 正宏 (建築士)
松本 明子 (プログラム責任者)
山住 邦夫 (建築士)



現地保健省の結核対策を支援 [アルメニア/内科医]



情勢不安地域で外傷治療を提供 [パキスタン/外科医]

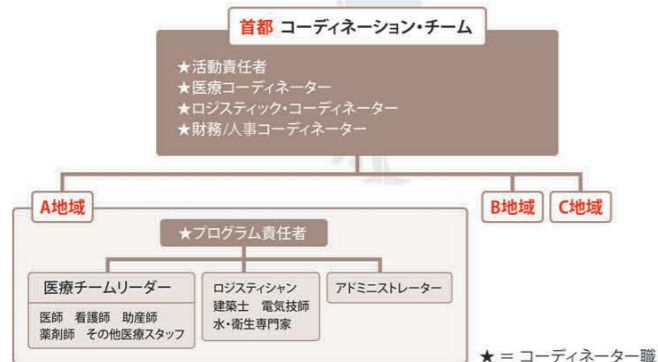


南スーダン難民キャンプ内の診療所で薬剤を管理 [ウガンダ/薬剤師]

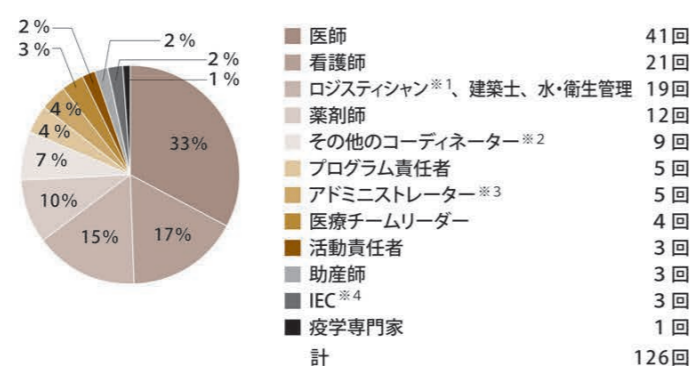


結核対策プログラムの立ち上げに従事 [バブアニューギニア/建築士、ロジスティシャン]

MSF 現地活動組織図



MSF日本 派遣回数 職種別割合



MSF日本 派遣者出身地 (都道府県)

Table listing the number of staff members from various Japanese prefectures, totaling 87.

海外派遣スタッフを募集しています。

MSF日本では、世界各地で活動を行う医療従事者(医師、看護師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、臨床心理士)およびロジスティシャン、アドミニストレーターなどを常時募集しています。お気軽にお問い合わせください。

E-mail: recruit@tokyo.msf.org
www.msf.or.jp/work

事実を見て、知りたい—— 紛争地の活動へ

内戦が各地で拡大し、2014年を通じて援助の大規模展開が求められた南スーダン。中でも激しい戦闘で深刻な被害を受けている地域、ユニティ州ベンティウに派遣された一人の日本人医師。彼女はなぜ活動に参加し、そこで何を体験したのか——。避難民キャンプでの活動体験を報告します。

早水 真理子(麻酔科医/南スーダン)

国境なき医師団(MSF)の活動に参加することは大学時代からの夢でした。紛争で多くの人々が不条理に亡くなった歴史、そしてその状況が世界中で今も続いているということに興味があり、実際にそういった国へ行き、現地の人びとに寄り添い、この目で事実を見たい、知りたいと感じていました。麻酔科医として病院に勤務していましたが、外傷治療や救急の経験を積むため、専門研修を受講してから参加しました。

2014年5月初旬から1ヵ月半、派遣されたのは、内戦が激化している南スーダンのベンティウという町です。多くの人々が家を追われ、国連のキャンプやブッシュに避難していました。MSFはキャンプの避難民のため緊急プログラムを立ち上げ、外科、内科、栄養管理と、幅広く活動を行っていました。

5万人が暮らすキャンプの環境は劣悪で、下痢や水不足による脱水で苦しむ患者さん、栄養失調の子どもが多数運ばれてきていました。死亡率も非常に高く、早急な改善に向け100人以上のメンバー全員が忙しく働いていました。

ベンティウでは私の派遣直前に大規模な戦闘が起き、MSFの病院に200人近くの負傷者が一度に運ばれました。私は到着後、主にその銃創に対する包帯交換、縫合や整形外科手術に携わりました。加えて交通事故や新規の銃創患者さんが運ばれることもあり、緊急手術もしばしば行いました。

内戦で国内の輸送交通が寸断されていたこともあり、必要な物資が届かないこともありました。キャンプ内はハエが非常に多く、手術中も人をめがけて飛んでくるため、衛生確保のため殺虫剤を注文しましたが、届いたのは私の帰国直前でした。日本で当たり前だと思っていたものが簡単に手に入ら

ないことで、それまでの自分の価値観を大きく見直しました。

参加前は不安もありましたが、迷ったときは勇気がある方を選んだ方が後悔がない、と決めて決断しました。真に必要なとされているところで貢献できるのは、医療者としてこの上ない幸せです。家族や職場、周囲の人への感謝の気持ちは忘れずに、今後もMSFの活動に参加し続けたいと思います。



共に励まし合って活動できたチームと。



南スーダン

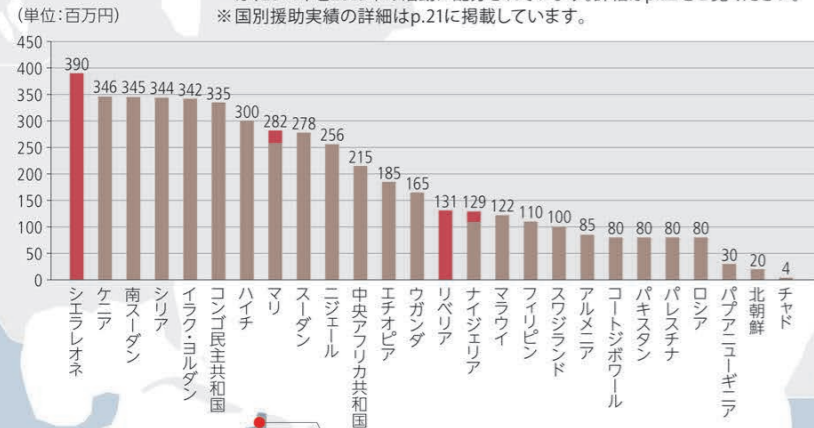
2013年末から各地で戦乱が拡大。多くの人々が死傷し、避難を余儀なくされているが、著しい情勢悪化のため各地で援助は大幅に不足している。2014年中にMSF日本が派遣したスタッフ数は、延べ31人と最大。

MSF日本から、26の国・地域での活動に資金援助を行いました

2014年、国境なき医師団(MSF)日本に寄せられた資金は、紛争や貧困により危機にさらされた人びとに医療・人道援助を届けるため、プログラムを運営するオペレーション事務局を通じて、26の国と地域での活動に充てられました。

MSF日本による国別援助実績

※グラフ赤色部分はエボラ緊急支援。エボラ用途指定寄付を通じて頂いた資金は、2014年と2015年の活動に配分されています。詳細はp.22をご覧ください。
※国別援助実績の詳細はp.21に掲載しています。



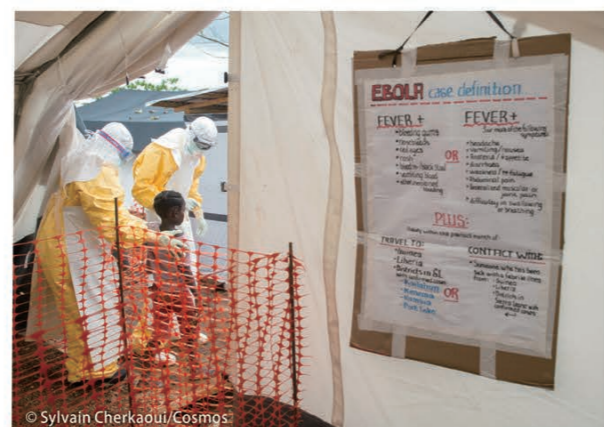
■ 日本から活動資金の送られた国
■ その他のMSFの活動国・地域

ハイチ
主なプログラム内容: やけどなどの外傷治療、産科・新生児医療などの専門病院を運営



© Diana Zeyneb Alhindawi

シエラレオネ
主なプログラム内容: エボラ出血熱の流行地域で、専門治療施設を設置、予防活動も行う



© Sylvain Cherkaoui/Cosmos

中央アフリカ共和国
主なプログラム内容: 国内紛争による負傷者の外傷治療や避難民に対する医療援助



© Yann Libessart/MSF

ケニア
主なプログラム内容: ソマリアからの難民が暮らすダダブ難民キャンプで医療を提供



© Tom Maruko



イラク
主なプログラム内容: 国内紛争による避難民、シリアからの難民に医療などの援助を提供

© Yuri Kozyrev/Noor



マリ
主なプログラム内容: 子どもの栄養失調治療やマラリアの治療・予防対策支援など

© Aurelie Baume/MSF



スーダン
主なプログラム内容: 南スーダンからの難民や現地住民に予防接種や栄養治療を含む医療を提供

© MSF

エボラに勝つ日が 来ると信じて

エボラ出血熱が流行した地域では不安と混乱も広がりました。

しかし、地元の被害に心を痛めながら、諦めず、エボラと闘っているのも、現地の人びとです。

シエラレオネ・カイラフンの治療センターで働くMSF現地スタッフの思いは――。

ファトマタ・スワレイ (心理ケア担当)

私の役割は、患者の気持ちをなだめ、不安に耳を傾け、治療センターでの過ごし方を説明することです。ベッドを離れない患者には特に目を配ります。死を覚悟したような様子の人には、諦めずに食事や水分を取るよう、屋外で日光を浴びるよう勧めます。



© Fatmata Murtaza/MSF

患者の退院は喜ばしいことですが、帰宅が歓迎されず、友人も恐れて近寄らないことがあります。そういう元患者から連絡があれば、私が周囲の人への説明に向かいます。

大変なのは子どもの患者です。家族を亡くした子もいます。私たちはエボラ孤児を一時滞在施設に受け入れ、後見役になれる親類を探します。孤児となった子どもたちにどんな将来が待ち受けているのか、それが一番心配です。

モハメド・レノ (衛生担当)

私は隣国ギニアの銀行員で、英語の勉強のためシエラレオネに来ていました。エボラ流行後、国境は封鎖され、生活は一変しました。今はエボラ治療センターの一員として、感染拡大防止に取り組んでいます。テントや救急車や遺体を消毒する塩素消毒液が一番の相棒。適切に使えばセンターの安全性を高められます。



© Fatmata Murtaza/MSF

救急車で来た患者は私の付き添いでテントまで行き、水と軽食を受け取ります。長くつらい移動を終え、息をつく瞬間です。遺体を消毒し、埋葬チームへ引き継ぐのも私の仕事です。最後に顔を合わせる人間が私になる患者もいます。危険も伴う業務ですが、この活動に携われるのは喜びです。効果を確信しているから、やりがいを感じられるのです。

ドミニク・ペシマ (健康教育担当)

私がここで働くのは、同郷の人びとにエボラを理解してもらうために最善を尽くしたいからです。村を回り、他人に近づく行為を避けるべき理由を説明します。治療センターの説明もします。人びとはここを「一度入ったら出てこられない場所」と考えています。そして、こう聞きます。「治療法がないのに、どうして治せるんだ?」



© Fatmata Murtaza/MSF

回復した患者を家に送るときは苦労も忘れます。近隣の住民が満面の笑みで歩み寄り、歌い、踊り、祝福します。患者の帰還は、大切な人を失った人には希望を与え、私には成果の証となります。私はエボラとの闘いに臨む戦士です。感染の連鎖を断つこの仕事を、エボラが駆逐されるまで続けていきます。私たちが勝者となることを信じています。



シエラレオネ

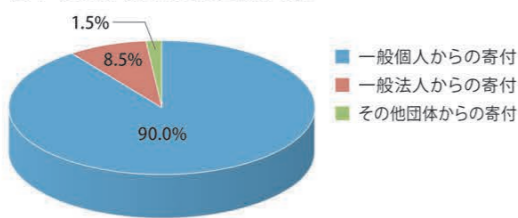
ギニアで発生したエボラ流行が拡大し、1万人以上が感染、3000人以上が死亡。国内の医療従事者の10%が命を落としたとみられる。MSFは5カ所に治療センターを設置し、感染拡大防止にも取り組んだ。

2014年度は、シリアでの内戦が深刻化し、最大規模の人道危機となりました。MSFは、シリアにおける人道援助の優先性を訴え、現地中央政府による活動許可が得られず、さまざまな武装勢力の攻撃という危機に直面する中で、人びとに援助を届ける努力を続けました。南スーダン、中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国などでも、紛争に苦しみ、医療にアクセスできない人びとに援助を続けています。一方、3月にギニアで確認されたエボラ出血熱の流行が西アフリカ諸国に拡大し、未曾有の大流行となったことから、MSFはいち早く緊急援助活動を開始、流行封じ込めのため年間を通じて懸命の対応に当たりました。MSF日本は、パートナー事務局の一つとして、現地で援助活動に当たるオペレーション事務局からの資金ニーズ、および海外スタッフ派遣という人的ニーズに応じるべく活動しました。以下、2014年度のMSF日本の活動を財務面から振り返ります。

1. 寄付収入は総額70.3億円（前期比20%増）

皆さまからの絶大なご支援、ご厚意により、2014年度のMSF日本の寄付収入は総額70.3億円、その他の収入を含めた総収入は総額70.5億円と、どちらも過去最大となりました。

日本の寄付収入の支援者別内訳



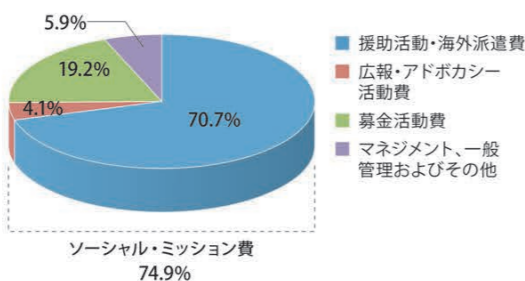
一般個人支援者数	285,223人
一般法人支援社数	8,872社
その他支援団体数	2,516団体
延べ支援者総数	296,611

支援者総数は、前年比で11%増加しました。寄付金以外にも、現物および役務・サービスのご提供という形でのご支援を数多くいただきました。

2. 援助活動に係る支出は総額69.7億円（前期比19%増）

MSF日本の、2014年度の活動別の支出内訳は、右図の通り。寄付増収に支えられ、援助プログラム支援金が48.4億円と大幅に拡大しました。活動地スタッフの募集活動、ならびに広報・アドボカシー活動と併せた、ソーシャル・ミッション支出は計52.1億円。レシオ（支出総額に占める割合）は74.9%で過去最大級となりました。

援助活動に係る経常費用69.7億円の内訳



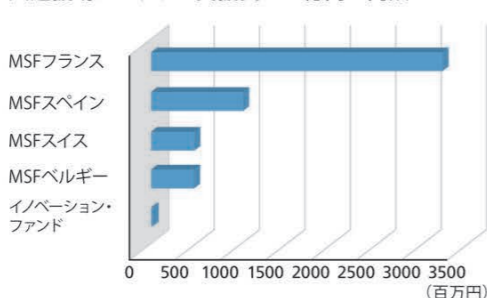
(百万円)	
① 援助活動・海外派遣費	4,928
・人道援助プログラム支援金	4,844
・国内外でのプログラム・サポート等	84
② 広報・アドボカシー活動費	289
③ ソーシャル・ミッション費計(①+②)	5,217
④ 募金活動費	1,338
⑤ マネジメント、一般管理費およびその他	414
援助活動に係る経常費用合計(③+④+⑤)	6,970

※詳細は、P.24~31に掲載の「主要財務諸表」をご参照ください。

3. 人道援助プログラム支援金は総額48.4億円（前期比29%増）

MSFでは、5つのオペレーション事務局が世界各国・地域で人道援助プログラムを運営し、MSF日本などパートナー事務局が財政支援を行っています。MSF日本は2014年度において、資金配分パートナーシップ協定を結ぶMSFフランス、MSFスペイン、MSFスイスおよびMSFベルギーが世界各国・地域で運営する人道援助プログラムに対して、総額48.4億円の支援金を配分しました。

人道援助プログラム支援費48.4億円の内訳



(百万円)	
MSFフランス	3,127
MSFスペイン	930
MSFスイス	393
MSFベルギー	390
イノベーション・ファンド	3

※2014年度の支援金の国別配分額の詳細については、P.21をご参照ください。

参考：MSF日本の過去7年間の財務実績

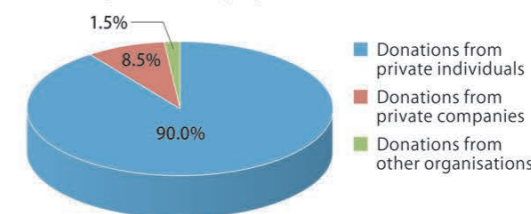


In 2014, MSF saw the most serious humanitarian crisis in Syria due to the deterioration of armed conflicts. MSF appealed the importance of the prioritizing of humanitarian aid in Syria, and continued efforts to reach patients who were isolated from medical care against the situation where we could not obtain permission for activity from the central government, and different armed groups sought to attack medical activities. We also continued our efforts to address the needs of people affected by armed conflicts, in areas such as South Sudan, the Central African Republic and Democratic Republic of the Congo. Ebola, which prevailed in Guinea in Mar 2014, has spread across West African countries and became an unprecedented outbreak. MSF took swift action and made all efforts to contain the spread of the outbreak throughout the year. MSF Japan, as a partnership office, exerted every effort in responding to the financial as well as human resource needs by dispatching staff overseas in order to support the operational centers. Below, we look back at 2014 from the financial perspective.

1. Donation revenues JPY 7.03 billion (increased by 20% year-on-year)

Thanks to your continuous support, in 2014 MSF Japan could post a donation revenue of JPY 7.03 billion and a total revenue of JPY 7.05 billion-both the highest figures in MSF Japan history.

Breakdown of donations in Japan by donor category



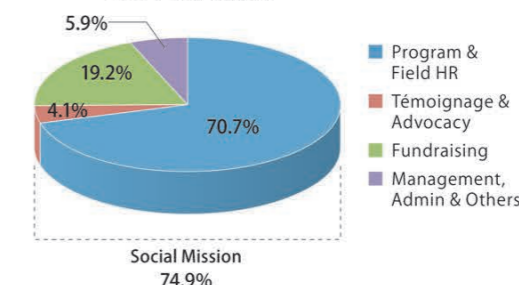
Private individuals	285,223
Private companies	8,872
Other organisations	2,516
Total number of donors	296,611

Number of private individual donors increased by 23% y/y. MSFJ also received in-kind donations from many supporters.

2. Total operating expenditures were JPY 6.97 billion (increased by 19% y/y)

The breakdown of the expenditures of MSF Japan by activity is as shown to the right. Thanks to the revenue increase, grants contribution for operation increased by 29% to JPY 4.84 billion. Social mission expenditures, covering grants and field HR activity and awareness raising, increased by 25% to JPY 5.21 billion and the social mission ratio was 74.9%.

Breakdown of total expenditures of JPY 6.97 billion



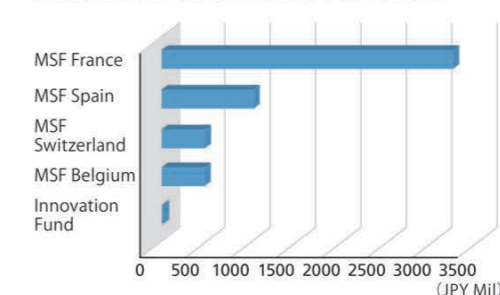
(JPY Mil)	
① Program & Field HR	4,928
・Program (Grants)	4,844
・HQ Program support, etc.	84
② Témoignage & Advocacy	289
③ Social Mission(①+②)	5,217
④ Fundraising	1,338
⑤ Management, Admin & Others	414
Total(③+④+⑤)	6,970

*See Major Financial Statements (P.24-P.31) for further details.

3. Grants amounted to JPY 4.84 billion (increased by 29% y/y)

MSF has five operational centers operating humanitarian aid programs in many countries and regions of the world. Partner sections like MSF Japan provide financial support. In 2014, MSF Japan provided total grants of JPY 4.84 billion to the programs operated by MSF France, MSF Spain, MSF Switzerland and MSF Belgium, under finance agreements.

Breakdown of the Grants of JPY4.84 billion



(JPY Mil)	
MSF France	3,127
MSF Spain	930
MSF Switzerland	393
MSF Belgium	390
Innovation Fund	3

*See P.21 for further details of grants allocation by country for 2014.

MSF Japan financial performance in the last 7 years



財務の概況

2014年度のMSF日本の主要活動を財務的に総括します。活動の原資となる総収入は、70億5474万円で、前期比で20%増加しました。一方、総支出は69億7009万円で、前期比で19%増加しました。活動費の内訳は、ソーシャル・ミッション費として合計52億1759万円、その内訳は、人道援助プログラム支援金として48億4422万円、海外スタッフ募集・派遣活動費等として5428万円、アドボカシー活動と広報活動費との合計2億8937万円でした。そのほか、募金活動費として13億3836万円、マネジメント、一般管理費およびMSF韓国への活動支援金等として計4億1413万円を計上しました。1年間の援助活動の結果、最終的な収支は8465万円の余剰となりました。ソーシャル・ミッションの観点からみて、前期を上回る効率的な資金活用ができました。各活動ごとの詳細は、本報告書の財務諸表に記載の通りです。

2014年度の日本経済は、景気回復への道を模索するなか、外為市場では円安化が一段と進みました。オペレーション事務局に対し、支援金を外貨で送金するMSF日本としては、円安の影響に対し工夫を強いられた1年でした。同支援金は、シエラレオネ(3億9007万円)、ケニア(3億4624万円)、南スーダン(3億4566万円)、シリア(3億4450万円)、イラク・ヨルダン(3億4200万円)など、合計26の国・地域で運営された援助プログラムに配分されました。詳細はP.21-22付表1・2をご参照ください。

Financial Overview

MSF Japan financial activities in 2014 are summarized below by major activity. The total revenues as working funds increased by 20% over the previous year to JPY 7.05 billion. Total expenditures also increased by 19% to JPY 6.97 billion. JPY 5.21 billion was allocated to Social Mission, which consists of grants (JPY 4.84 billion), field HR management (JPY 54 million) and témoignage and advocacy (JPY 289 million). JPY 1.33 billion was used for fundraising activities, and JPY 414 million was spent on management, general administrative and other investment costs, including supports for MSF South Korea. We posted a net surplus of JPY 84 million for this fiscal year. As such, it can be said that more efficient funds allocation has been achieved in terms of social mission, when compared with the previous year. See the financial statements for further details by activity.

Japan's economy has not yet got on a right track towards sustainable growth in 2014, despite the continued economic policy known as Abenomics. When considering the operational centers as receivers of grants denominated in foreign currencies, MSF Japan has been faced with challenges on how to mitigate the negative impacts of the Japanese yen's continuing depreciation. MSF Japan allocated the grants to the programs operated in 26 countries and areas, such as Sierra Leone (JPY 390 million), Kenya (JPY 346 million), South Sudan (JPY 345 million), Syria (JPY 344 million) and Iraq-Jordan (JPY 342 million). See Appendix Table 1 and 2 (P.21-22) for further details.

収入、支出、プログラム支援金、ソーシャル・ミッション・レシオおよび剰余金の推移

Track of Operating Revenues, Operating Expenditures, Grants, Social Mission Ratio and Reserves

(単位:百万円/Unit: JPY Mil)

	2011	2012	2013	2014
収入 Revenues	5,315	4,679	5,896	7,054
支出 Expenditures	4,940	5,015	5,889	6,970
人道援助プログラム支援金 Grants	3,288	3,221	3,799	4,844
ソーシャル・ミッション・レシオ Social Mission Ratio	74.90%	72.00%	71.80%	74.90%
剰余金 Reserves	949	613	620	704

※2014年度の収益・費用の詳細は「主要財務諸表」(P. 24)をご覧ください。2014年の剰余金には、2015年に繰り延べたエボラ関連の資金(2億400万円)は含めていません。
*See P.25 for further details of revenues and expenditures for 2014. Reserves for 2014 do not include Ebola related funds which are carried forward to 2015.

2014年度は、募金調達方法の多様化に努め、また広報活動を通じてMSFの認知度が向上したこと、またエボラ出血熱の緊急援助に大きなご支援を頂いたことから、過去最大の寄付収入を計上しました。これに伴い、プログラム支援金も大幅に増加し、総支出は19%増加しました。結果として、ソーシャル・ミッション・レシオは74.9%、期末時点での剰余金は、年間国内経費のおおむね4.2ヵ月相当の水準となりました。

In 2014, MSF Japan recorded the highest donation revenues in its history, as a result of diversified fundraising and improvements in the recognition rate of MSF in Japanese society. The great support from donors for the emergency fundraising for Ebola also contributed. As a consequence, total expenditures increased by 19% including grants contribution (+29%), when compared to the previous year. Social mission ratio was improved to 74.9%. Reserves at year end reached the level at 4.2 months of annual national expenditures.

付表 1. MSF日本による2014年度人道援助プログラム支援金の配分先

Appendix Table 1 MSFJ's Grants Allocation by Country in 2014

MSF日本が2014年度に拠出したプログラム支援金約48億円は、以下の国・地域で稼働中の各プログラムに配分されました。

The following table shows breakdown of where and for what program the grants of JPY 4.84 billion provided by MSF Japan in 2014 were utilized.

		(百万円 / JPY Mil)		
国 / 地域 Country / Region	2014	主要プログラム Major Programs Being Operated		オペレーション事務局 Operational Centres
アフリカ Africa				
シエラレオネ	Sierra Leone	390.0	エボラ出血熱への緊急医療 Emergency for Ebola	BE
ケニア	Kenya	346.2	難民へのHIV/エイズ・結核医療提供 HIV/AIDS & TB care for refugees	FR/CH
南スーダン	South Sudan	345.6	マラリア/コレラ医療 Malaria & cholera	FR/SP
コンゴ民主共和国	Democratic Republic of the Congo	335.4	避難民に対しコレラ/マラリア/緊急医療提供 Healthcare for cholera, malaria and emergency care for patients affected by conflicts	FR
マリ	Mali	282.9	小児栄養失調治療とマラリア対策 Pediatric malnutrition, seasonal malaria prevention	FR/SP
スーダン	North Sudan	278.4	弱い立場の住民への外来診療 OPD medical care for vulnerable residents	FR/SP
ニジェール	Niger	256.1	マラリア/小児科/栄養失調治療 Malaria/pediatric medical care/malnutrition	FR/SP
中央アフリカ共和国	Central African Republic	215.3	基礎医療提供 Primary healthcare	FR
エチオピア	Ethiopia	185.0	南スーダン難民への医療援助 Medical care for South Sudanese refugees	FR
ウガンダ	Uganda	165.0	難民に対するHIV/エイズのケア HIV/AIDS care for refugees	FR
リベリア	Liberia	131.0	エボラ出血熱への緊急医療 Emergency for Ebola	FR
ナイジェリア	Nigeria	129.8	母子保健/コレラ流行への緊急医療 Mother & child care/emergency for cholera	FR/SP
マラウイ	Malawi	122.5	感染症対策(HIV/エイズ)等 Epidemic disease (HIV/AIDS), etc.	FR
スワジランド	Swaziland	100.0	感染症対策(HIV/エイズ・結核等) Epidemic disease (HIV/AIDS, TB etc.)	CH
コートジボワール	Ivory Coast	80.0	母子保健 Mother & child healthcare	FR
チャド	Chad	4.2	中央アフリカ難民への医療提供 Medical care for CAR refugees	FR
計 Total		3,367.8		
中南米 The Americas				
ハイチ	Haiti	300.0	外科病院、季節性コレラ対策 Medical care for cholera & surgical hospital	FR/CH
計 Total		300.0		
中東 Middle East				
シリア	Syria	344.5	シリア内戦避難民に対する外科/小児科/心理ケア等緊急医療 Emergency medical care for Syrian IDPs, surgical, pediatric and mental health	FR/SP
イラク・ヨルダン	Iraq-Jordan	342.0	シリア難民への外科医療 Surgery and physiotherapy for Syrian refugees	FR/CH
パレスチナ	Palestine	80.0	外科再建手術および心理ケア Reconstructive surgery/mental healthcare	SP
計 Total		766.5		
アジア Asia				
フィリピン	Philippines	110.9	巨大台風被災後の母子医療/精神ケア Emergency aid for the areas devastated by typhoon	FR
アルメニア	Armenia	85.0	結核/多剤耐性結核への対応 Epidemic disease (TB, MDR-TB)	FR
パキスタン	Pakistan	80.0	小児科外来/産婦人科/外科診療 Pediatric OPD/maternity/surgery	FR
ロシア	Russia	80.0	医療技術援助・トレーニング・特別診察 Technical assistance, training	FR
北朝鮮	North Korea	20.0	基礎医療 Primary healthcare	CH
計 Total		375.9		
オセアニア Oceania				
バブアニューギニア	Papua New Guinea	30.0	結核治療 Medical care for TB	FR
計 Total		30.0		
総計 Total		4,840.3		

付表2. 2014年度エボラ緊急援助に関する財務の概要

Appendix Table 2: Financial overview of Ebola emergency programs implemented in 2014

1. エボラ緊急援助プログラム

Ebola emergency programs

目的 Objectives:

エボラ出血熱流行を抑制、感染拡大を防止し、患者に医療ケアを提供すること。

To reduce and contain the spread of the Ebola outbreak and to provide medical care to Ebola patients.

活動施策 Strategies:

(1) 患者に対する適切な隔離とケア	Isolation and supportive care for patients
(2) エボラによる死者の安全な埋葬	Safe burial activities
(3) 拡大防止のための教育・広報活動	Raise awareness and community involvement
(4) 患者発見、拡大防止のための疾病管理調査	Alert follow up and surveillance system
(5) 接触者の追跡調査	Contact tracing
(6) エボラ以外の医療提供の確保	Access to non-Ebola patients

2. MSF日本のエボラ出血熱緊急援助に関する資金

Funds from MSF Japan for Ebola emergency programs

MSF日本からのエボラ緊急支援の呼びかけに対し、2014年7月から2015年3月末までに延べ7万件以上、約8億5290万円のご寄付を頂きました。そのうち、2014年度内に受領した約7億6940万円は以下の通り会計処理されました。一部を2015年の活動に繰り延べています。

In response to the call for supporting Ebola emergency activities, MSF Japan received earmarked donations in total 852.9 million from over seventy thousand donors from July 2014 until March 2015. Out of the earmarked donations, JPY 769.4 million that we received by the end of year 2014 was allocated as shown below. A part of the funds were carried over to be used in the operation in 2015.

(単位:百万円/Unit: JPY Mil)

2014年度内のエボラ用途指定寄付入金額 Total amount of the Ebola earmarked donations received in 2014	769.4
2014年度にオペレーション事務局へ配分した金額 Amount allocated to the Operational Centers for operational use in 2014	565.3
2015年度の活動に繰り延べた金額 Amount carried forward to operational use in 2015	204.1

なお、2015年2月、日本政府(外務省)は平成26年度補正予算により、エボラ出血熱対策支援として、MSFに200万米ドル(約2億4000万円)を拠出することを決定。3月にMSF日本に入金されました。この資金は、2015年にギニア、リベリア、シエラレオネにおいて、エボラ患者のケアや、小児科や産科を含む、エボラ流行により弱い医療制度の支援などに活用されます。

In February 2015, the Government of Japan (the Ministry of Foreign Affairs) decided to disburse 2 million US dollars for MSF from the supplementary budget in assistance for Ebola emergency. The fund is to be utilized in 2015, to restore the health system devastated by the Ebola outbreak, including the pediatric and maternity services, as well as to provide medical care for Ebola-infected patients, in Guinea, Liberia and Sierra Leone.

※本頁記載の金額はMSFの2014年決算期末レート: 1ユーロ=145.23円で換算しています。

* The conversion rate used in this page is as of the end of the year 2014 set for MSF financial report: 1 euro = 145.23 JPY.

3. MSF日本からの支援金のプログラム配分状況

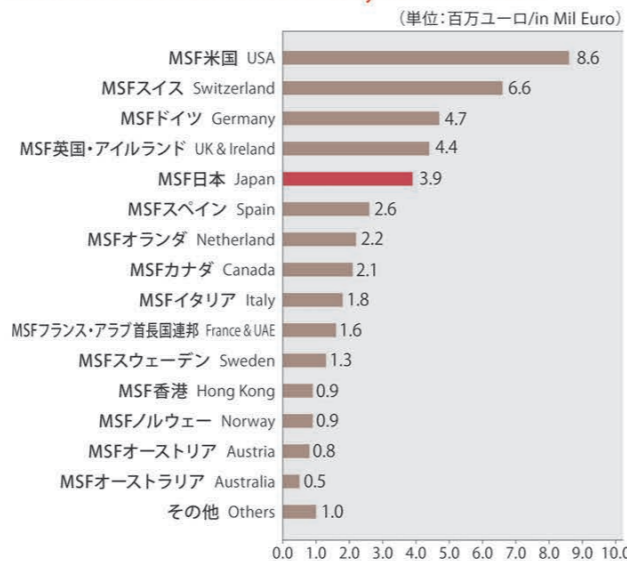
Funds from MSF Japan allocated for Ebola programs

前述の通り、2014年度中にMSF日本は約5億6530万円(約390万ユーロ)を、エボラ緊急援助活動を運営するオペレーション事務局に人道援助プログラム支援金として拠出。全世界のMSF事務局の使途指定拠出額約4390万ユーロのうち8.8%を占めました。

As shown in the previous chart, MSF Japan allocated JPY 565.3 million (around 3.9 million euros) to the Operational Centers that manage Ebola emergency programs. This amount accounts 8.8% of 43.9 million euros, the total amount allocated from all the MSF offices over the world.

エボラ緊急支援 2014年事務局別拠出額

Allocation of Ebola Earmarked Funds by MSF Office in 2014



※他の事務局の金額は、2015年3月時点、監査前の数字です。

* The figures of other offices are as of March 2015 and before the audits.

MSF日本からの支援金配分先(2014年度)

MSF Japan Ebola emergency funds allocation by Country in 2014

オペレーション事務局を通じて配分された支援金は、下記のエボラ流行地における活動プログラムにて、スタッフ人件費、運営維持経費、医療物資、輸送費等の活動資金として活用されました。

The funds from MSF Japan were allocated to the programs in countries shown below through Operational Centers, and utilized as program expenses including staff costs, medical activities and materials, operational running costs, transportation and logistics.

活動国 Country	オペレーション事務局 Operational Centers	支援金 (百万円/JPY Mil)
シエラレオネ Sierra Leone	MSFベルギー MSF Belgium	390.0
リベリア Liberia	MSFフランス MSF France	131.0
マリ Mali	MSFスペイン MSF Spain	24.4
ナイジェリア Nigeria	MSFスペイン MSF Spain	19.8
	合計 Total	565.3

独立監査人の監査報告書

2015年3月18日

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
会長 黒崎 伸子 殿

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野村 哲明

<財務諸表監査>

当監査法人は、特定非営利活動法人 国境なき医師団日本の2014年1月1日から2014年12月31日までの2014年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、財務諸表に対する注記及び財産目録について監査を行った。

財務諸表に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表に係る期間の財産、正味財産増減及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

[English Translation of the Auditors' Report Originally Issued in the Japanese Language]

Independent Auditors' Report

Mar 18 2015

Ms. Nobuko Kurosaki, the president
Not-for-Profit Organization Médecins Sans Frontières Japon:

KPMG AZSA LLC
Noriaki Nomura
Designated Limited Liability Partner
Engagement Partner
Certified Public Accountant

We have audited the financial statements, comprising the balance sheet, the statement of financial activities, the statement of cash flows and the summary of assets and the related notes of Not-for-Profit Organization Médecins Sans Frontières Japon as of and for the year ended December 31, 2014.

Management's Responsibility for the Financial Statements and Others

Management is responsible for the preparation and fair presentation of the financial statements in accordance with accounting principles of public interest corporation generally accepted in Japan, and for such internal control as management determines is necessary to enable the preparation of financial statements that are free from material misstatements, whether due to fraud or error.

Auditor's Responsibility

Our responsibility is to express an opinion on the financial statements based on our audit as independent auditor. We conducted our audit in accordance with auditing standards generally accepted in Japan. Those standards require that we plan and perform the audit to obtain reasonable assurance about whether the financial statements are free from material misstatement. An audit involves performing procedures to obtain audit evidence about the amounts and disclosures in the financial statements. The procedures selected depend on our judgment, including the assessment of the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error. In making those risk assessments, we consider internal control relevant to the entity's preparation and fair presentation of the financial statements in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, while the objective of the financial statement audit is not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the entity's internal control. An audit also includes evaluating the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates made by management, as well as evaluating the overall presentation of the financial statements. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our audit opinion.

Opinion

In our opinion, the financial statements referred to above present fairly, in all material respects, the financial position and the results of operations of Not-for-Profit Organization Médecins Sans Frontières Japon for the period, for which the financial statements were prepared, in accordance with accounting principles of public interest corporation generally accepted in Japan.

Other Matter

Our firm and engagement partners have no interest in Not-for-Profit Organization Médecins Sans Frontières Japon which should be disclosed pursuant to the provisions of the Certified Public Accountants Law of Japan.

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

貸借対照表

2014年12月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減	増減比
I. 資産の部				
1. 流動資産				
現金および預金	1,368,011,279	1,090,009,036	278,002,243	25.5%
未収入金(注1)	129,299,818	90,716,853	38,582,965	42.5%
前払費用	8,253,109	5,522,829	2,730,280	49.4%
立替金(注2)	405,507,275	145,833,797	259,673,478	178.1%
その他流動資産	16,964,652	15,916,679	1,047,973	6.6%
流動資産合計	1,928,036,133	1,347,999,194	580,036,939	43.0%
2. 固定資産				
1) 特定資産				
緊急災害援助積立資金(注3)	204,166,313	155,624,947	48,541,366	31.2%
2) その他固定資産				
建物附属設備	10,414,391	4,199,772	6,214,619	148.0%
事務用什器・備品	19,978,690	6,551,779	13,426,911	204.9%
ソフトウェア	2,915,412	7,759,896	△ 4,844,484	△ 62.4%
リース資産	2,227,660	3,564,256	△ 1,336,596	△ 37.5%
長期差入保証金等	32,445,634	30,447,970	1,997,664	6.6%
固定資産合計	272,148,100	208,148,620	63,999,480	30.7%
資産合計	2,200,184,233	1,556,147,814	644,036,419	41.4%
II. 負債の部				
1. 流動負債				
未払金(注4)	1,269,145,143	664,556,388	604,588,755	91.0%
預り金	1,030,800	96,936,091	△ 95,905,291	△ 98.9%
短期リース債務	1,352,672	1,303,220	49,452	3.8%
流動負債合計	1,271,528,615	762,795,699	508,732,916	66.7%
2. 固定負債				
長期リース債務	930,201	2,282,873	△ 1,352,672	△ 59.3%
退職給付引当金	18,895,600	15,434,200	3,461,400	22.4%
固定負債合計	19,825,801	17,717,073	2,108,728	11.9%
負債合計	1,291,354,416	780,512,772	510,841,644	65.4%
III. 正味財産の部				
指定正味財産(注3)	204,166,313	155,624,947	48,541,366	31.2%
一般正味財産	704,663,504	620,010,095	84,653,409	13.7%
正味財産合計	908,829,817	775,635,042	133,194,775	17.2%
負債および正味財産合計	2,200,184,233	1,556,147,814	644,036,419	41.4%

(注1) 外部の委託業者により支援者からの回収が滞っている寄付金(支援者口座からの引落しは、期末日までに完了)のうち、当年度末日現在、同委託業者から未入金のもの。

(注2) MSFフランス、MSFスイス等のオペレーション事務局に対して、国内で立替えた海外派遣スタッフに関する経費等である。

(注3) 前年度の残高は、前年度に受領したフィリピン台風災害向けの指定寄付金のうち、当年度の援助活動用として繰り越した資金である。

また、当年度の残高は、当年度に受領したエボラ出血熱に対する緊急援助活動向けの指定寄付金のうち、翌年度活動用として繰り越した資金である。

(注4) MSFベルギー、MSFフランス、MSFスペインおよびMSFスイスの各事務局に対する、プログラム支援金に関するものは、合計1,095,560,166円。

[English Translation of the Balance Sheet Originally Issued in Japanese Language]
Not-for-Profit Organization Médecins Sans Frontières Japon

Balance Sheet

(As of December 31, 2014)

(Unit: JPY)

Title	2014	2013	Changes	Ratio
I. Assets				
1. Current Assets				
Cash and deposit with banks	1,368,011,279	1,090,009,036	278,002,243	25.5%
Accounts receivable (*1)	129,299,818	90,716,853	38,582,965	42.5%
Prepaid expenses	8,253,109	5,522,829	2,730,280	49.4%
Advances (*2)	405,507,275	145,833,797	259,673,478	178.1%
Other current assets	16,964,652	15,916,679	1,047,973	6.6%
Total Current Assets	1,928,036,133	1,347,999,194	580,036,939	43.0%
2. Non Current Assets				
1) Specific purpose funds				
Reserve funds for emergency program (*3)	204,166,313	155,624,947	48,541,366	31.2%
2) Other Non-Current Assets				
Building structures	10,414,391	4,199,772	6,214,619	148.0%
Office equipment and fixtures	19,978,690	6,551,779	13,426,911	204.9%
Software	2,915,412	7,759,896	(4,844,484)	(62.4%)
Leased assets	2,227,660	3,564,256	(1,336,596)	(37.5%)
Long-term deposit	32,445,634	30,447,970	1,997,664	6.6%
Total Non-Current Assets	272,148,100	208,148,620	63,999,480	30.7%
Total Assets	2,200,184,233	1,556,147,814	644,036,419	41.4%
II. Liabilities				
1. Current Liabilities				
Accounts payable (*4)	1,269,145,143	664,556,388	604,588,755	91.0%
Deposits received	1,030,800	96,936,091	(95,905,291)	(98.9%)
Short-term lease obligation	1,352,672	1,303,220	49,452	3.8%
Total Current Liabilities	1,271,528,615	762,795,699	508,732,916	66.7%
2. Non-Current Liabilities				
Long-term lease obligation	930,201	2,282,873	(1,352,672)	(59.3%)
Provision for retirement benefits	18,895,600	15,434,200	3,461,400	22.4%
Total Non-Current Liabilities	19,825,801	17,717,073	2,108,728	11.9%
Total Liabilities	1,291,354,416	780,512,772	510,841,644	65.4%
III. Net Assets				
Earmarked Net Assets (*3)	204,166,313	155,624,947	48,541,366	31.2%
Non-earmarked Net Assets	704,663,504	620,010,095	84,653,409	13.7%
Total Net Assets	908,829,817	775,635,042	133,194,775	17.2%
Total Liabilities and Net Assets	2,200,184,233	1,556,147,814	644,036,419	41.4%

Notes: (*1) Balance of the outstanding donations as of December 31, 2014, which were already debited from donors' bank accounts but not yet arrived at our bank own account due to the funds transfer procedures of our outsourced vendor.

(*2) Advances temporarily paid for the expatriates on behalf of the operational centers such as MSF France and MSF Switzerland.

(*3) The balances for the previous fiscal year indicates the funds earmarked for the Philippines emergency that were carried forward to this year. The balance of this fiscal year is a part of earmarked funds received this year for Ebola emergency, which MSF Japan carries forward to the operation planned for the next fiscal year.

(*4) The total amount of grants payable for MSF Belgium, MSF France, MSF Spain and MSF Switzerland are JPY 1,095,560,166.

財務諸表への注記

1. 財務諸表の作成基準

国境なき医師団日本(Médecins Sans Frontières Japon、以下「MSF日本」)の財務諸表は、日本において一般に公正妥当と認められる公益法人会計基準(平成16年10月14日改正)に基づいて作成されている。同基準は国際財務報告基準(International Financial Reporting Standards)が求める適用要件や開示上の要件とは、いくつかの点で相違している。なお、活動費用の各事業活動別の分類および会計処理の表示については、Médecins Sans Frontières(以下「MSF」)の各事務局との間で共通して適用される「MSF International Accounting Standards」に準拠している。

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

- ①有形固定資産
定額法によっている。(耐用年数は建物附属設備および什器は3～5年、器具備品およびビデオ機器は3年)
- ②ソフトウェア
定額法によっている。(耐用年数は3年)
- ③リース資産
ITに係るソフトウェアならびに据えつけ工事一式であり、3年にわたり定額法により減価償却している。

(2) 引当金の計上基準

- 退職給付引当金
職員に対する退職金の支給に備えるため、退職金規定に基づく期末要支給額を計上している。

(3) リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引は、「リース取引に係る会計基準」に準拠し、売買処理により、リース資産およびリース債務(短期および長期リース債務)を計上する会計処理を行っている。

(4) 収益の認識

寄付収入は原則として、現金主義に基づき認識している。ただし、回収代行委託に係る一部の未収寄付金については、支援者の口座からの引き落としが当該事業年度内に完了し、かつ委託者からの計算書により回収額およびMSF日本への入金時期が確定しているものについては、当期の収益として認識している。

現物寄付の扱い

MSF日本は金銭以外にも、現物寄付として、ICT機器、ソフトウェア、切手等、およびプロボノによる役務の提供による支援を受けている。これらの現物寄付は、取得時に合理的に価額を見積もり「寄付収入」として認識している。マイレージ寄付については、航空券への振り替えの時点で、収益と費用を同時計上している。なお、合理的な金額の見積もりが困難な、プロボノによる役務提供については、簿外処理をしている。

(5) 経常費用について

費用については、主要な4事業活動別に区分して表示している。なお、各事業活動に共通の間接経費については、年間実労働時間に基づいて算出した、各事業活動別の総職員数で按分し、それぞれ以下の4事業活動に配分している。

(5)-1) ソーシャル・ミッション

- ①人道援助活動費
パートナーシップ関係を結ぶオペレーション事務局である、MSFフランス、MSFスペインおよびMSFスイスが世界各国・地域で運営する人道援助プログラムに支援金を配分している。
- ②海外派遣スタッフ募集・派遣業務
MSF日本は5つのオペレーション事務局の人材ニーズに応じ、フィールドにて人道援助プログラムに従事するスタッフの採用手続き・海外派遣説明会を実施するとともに、ビザ取得等の渡航準備、および各種の渡航前国内トレーニングを実施した後に海外現地に派遣している。
- ③アドボカシー活動費
MSFの各事務局と連携し、各国政府、国際機関、製薬会社等に対し、働きかけを行っている。
必須医薬品キャンペーン(Campaign for Access to Essential Medicines)への資金援助
同キャンペーンは、MSFが1999年以来世界規模で展開しているもので、さまざまな感染症で苦しむ人びとに安価で効果的な治療薬を提供できるよう、各国政府、国際機関、製薬会社に対して働きかけを行っている。MSF日本も他の事務局とともに応分の資金援助をしており、取りまとめはMSFインターナショナル事務局が行っている。
- ④広報活動費
MSF日本は主要なミッションの一つとして、世界各地での人道的医療援助活動の現場での最新情報について、出版物、ウェブサイト、展示会ならびに各メディアを通して、既存の支援者および一般社会等に対して周知活動を行っている。

(5)-2) 募金活動費

MSF日本は、援助活動に充てる十分な資金を確保するため、さらなる支援者を募ることを目的として、夏冬のダイレクトメールおよびニュースレターによる募金キャンペーン等を行っている。

(5)-3) マネジメントおよび一般管理費

マネジメント経費、および人事・財務・経理・総務・ICT等の管理部門の間接経費である。ほかにMSFインターナショナル事務局の経費負担分を含む。同事務局はネットワークで結ばれたMSF全事務局およびその他の関連組織との間の調整業務を担う組織で、その運営費については、全事務局が応分の負担をしている。

(6) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

3. 為替変動リスクのヘッジ

MSF日本は、外国為替の変動による、外貨での支援金送金額への影響を軽減するために、適宜先物為替取引を活用している。なお、投機目的には使用しない。

4. 表示方法の変更

(正味財産増減計算書)

前年度において①人道援助活動費のうち、「その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)」および「人件費」として表示していた経常費用は、活動の実態をより適切に表示するため、当年度より、②海外派遣スタッフ募集・派遣業務の「人件費」、「その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)」および③アドボカシー活動費の「人件費等」として表示している。また、金額的重要性が乏しくなったため、前年度において、(2)経常費用の中の、②広報活動費の一つとして表示していた「広告宣伝費等」は、当年度より、④広報活動費の「その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)」に含め、前年度において募金活動費の一つとして表示していた「広告宣伝費」は、当年度より「ダイレクトメール、ニュースレター等費用」に含めて表示している。これらの表示方法の変更を反映させるため、前年度の財務諸表の組替えを行っている。

5. 基本財産および特定財産の増減額およびその内訳

前年度に指定正味財産として受け入れた資産のうち、特定資産として固定資産の部に区分掲記していた、フィリピン向けの災害援助活動資金は、当年度に同国での援助活動に配分した。また、当年度に指定正味財産として受け入れた資産のうち、「エボラ出血熱」の蔓延に対する緊急医療援助活動に係る資金の一部を、特定資産として固定資産の部に区分掲記している。同資金は翌年度において、「エボラ出血熱」緊急援助プログラムに配分する。

6. 担保に供している資産

担保に供している資産はない。

7. 固定資産の取得価額・減価償却累計額および当期末残高

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	28,394,742	17,980,351	10,414,391
事務用什器・備品	55,559,586	35,580,896	19,978,690
什器	13,634,603	7,278,864	6,355,739
器具・備品	38,479,578	25,628,921	12,850,657
ビデオ機器	3,445,405	2,673,111	772,294
ソフトウェア	49,821,653	46,906,241	2,915,412
償却資産 計	133,775,981	100,467,488	33,308,493
リース資産(ドナー情報管理システム)	63,392,091	61,164,431	2,227,660
総計	197,168,072	161,631,919	35,536,153

(単位:円)

8. 未払金の当期末残高

未払金の主要なものは、以下のとおりである。

相手先	金額	相手先	金額
MSFベルギー	390,071,514	MSFスペイン	144,209,029
MSFフランス	376,028,685	MSF韓国	42,484,000
MSFスイス	185,250,938	その他	131,100,977
		合計	1,269,145,143

(単位:円)

9. 退職給付引当金

- (1) 採用している退職給付金制度の概要
内部規定に基づき、退職一時金制度を設けている。
- (2) 退職給付債務およびその内訳
退職給付債務 18,895,600円、退職給付引当金 18,895,600円
- (3) 退職給付費用
6,654,400円

10. 保証債務等の偶発債務

該当事項はない。

11. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高

該当事項はない。

12. 関連当事者との取引の内容

該当事項はない。

13. 重要な後発事象

該当事項はない。

14. 当年度の人道援助プログラム支援金等の配分内訳

下記の配分はMSFの資金配分協定(Resource Sharing Agreement および「エボラ出血熱」に係るEmergency Funding Mechanism)に基づく。

	個人からの寄付(注)	法人等からの寄付	MSF韓国からの гранツ	合計
プログラム支援金の配分先	4,341,221,280	482,357,919	16,730,029	4,840,309,228
MSFフランス	2,814,325,817	312,702,868	-	3,127,028,685
MSFスペイン	837,188,126	93,020,903	-	930,209,029
MSFスイス	353,700,000	39,300,000	-	393,000,000
MSFベルギー	336,007,337	37,334,148	16,730,029	390,071,514
MSFインターナショナル事務局(イノベーション・ファンドとして)				3,911,915
支援金合計				4,844,221,143

(単位:円)

- 注) 1. 「個人からの寄付」、「法人等からの寄付」の区分は按分計算による。
2. 上記の表以外に、MSF韓国からの預かり гранツ185,250,938円を、MSFスイスに転送した。

15. その他

MSF日本はMSF韓国に対し、当年度において活動支援費として、計200,695,768円を拠出した。2014年度の韓国国内での寄付収入は、総額2.6億円(24.3億ウォン)であった。そのうち、計208,023,161円を、MSF日本はMSF韓国から受領し、上記の注14に記載のとおり、 гранツとして、MSFスイスおよびMSFベルギーに配分し、それぞれが運営する人道援助プログラム(ハイチ、ニジェールおよびシエラレオネ)へ割り当てた。

Notes to Financial Statements

1. Basis for presenting the Financial Statements

The financial statements of Médecins Sans Frontières Japon (hereinafter "MSFJ") have been prepared in accordance with the Accounting Standards of Public Interest Corporation generally accepted in Japan (revised in October 14, 2004), which are different in certain respects in terms of application and disclosure requirements from International Financial Reporting Standards (IFRS). Detailed methods for describing the results of accounting, such as classification of expenses by activity, are prepared in compliance with MSF International Accounting Standards, which are applicable for all of MSF related entities.

2. Summary of Significant Accounting and Reporting Policies

(1) Method of depreciation of Tangible Fixed Assets and Software

Depreciation is calculated on a straight-line basis over the expected useful lives of the assets.

Category of Fixed Assets	Period	Category of Fixed Assets	Period
Building structures	3-5 years	Software	3 years
Furniture	3-5 years	Leased assets	3 years
Equipment and fixtures	3 years		

(2) Basis for recording provisions

Retirement benefits

In compliance with the internal "End of Service Payment Plan", MSFJ records the required amount of payment at year end to provide for the payments of retirement benefits to staff.

(3) Leased assets

Financing leases are accounted for in accordance with "the Accounting Standards for Leased Assets" and MSFJ recognizes the leased assets with lease obligations covering short as well as long-term basis on the balance sheet.

(4) Recognition of Revenues

Donations are basically recognized on a cash basis, with exceptional cases where the donations are collected by the outsourced vendors, parts of which are recognized as receivables, subject to the fact that collection of donations from the individual donors' bank accounts have been completed before balance sheet date, and confirmation of the amounts and the payment date in writing.

In-kind donations:

MSFJ usually receives as free provision of office equipment etc. or the services, we recognize revenues upon receipt based on the available market price. In case of mileage donations, revenues and expenses are simultaneously recognized when the mileage is exchanged with the air tickets. However, regarding the professional services provided on pro-bono basis such as legal consultation etc., we have not presented them in our statements of financial activities due to difficulty in evaluation.

(5) Operating Expenditures

Expenditures are allocated by major activity as shown in the statement of financial activities. Overhead expenses are allocated to the following activities based on the actual total working hours employed in one full year (FTE: Full Time Equivalent).

(5) - 1) Social mission

a) Financial contribution to operational centers (Grants)

This is related to the grants allocated to each operational program located in respective countries through Operational Centers such as MSF France, MSF Spain and MSF Switzerland in this fiscal year.

b) Field HR Management

Field HR Management includes the costs of activities for recruiting field staff for the program operations, arranging required training sessions as well as preparing for the departures to the field.

c) Advocacy activity

MSFJ appeals to the governments of various nations of the world, international organization and pharmaceutical companies in cooperation with the other MSF sections.

Financial support to Campaign for Access to Essential Medicines

The Campaign has been implemented by MSF since 1999 worldwide. Its mission is to address governments, international organizations and pharmaceutical companies in order to provide people suffering from infectious diseases with affordable and effective medicine. MSFJ is providing funds along with other MSF sections under the coordination of the MSF International office.

d) Awareness-raising activities

This includes all expenses incurred in connection with MSFJ's advocacy activities. Information is provided about our current activities at each program site. This information is disseminated via publications, our website, exhibitions and the other media.

(5) - 2) Fundraising activities

MSFJ implements fundraising activities to ensure sufficient funding for our operations. For this purpose, MSFJ launches several fundraising campaigns such as direct mailings and newsletter mailings.

(5) - 3) Management and administrative expenses

This includes expenses incurred for executive management as well as the overhead expenses for the administration of MSFJ office, including human resources, finance, accounting, administration and ICT. Financial contribution shared by all MSF offices for the operating expenses of MSF International office is also included. MSF International office provides the all MSF offices with the coordination services.

(6) Computation of Consumption Tax

All amounts stated are inclusive of national consumption tax and local consumption tax.

3. Hedging foreign currency exposure

MSFJ uses foreign currency forward contracts as a measure of hedging exposure risk of foreign currency. MSFJ does not use this instrument for speculation purposes.

4. Changes of classification

(Statement of financial activities)

From this fiscal year, "Program & Program Support" are classified into 3 parts such as ① Program & Program Support, ② Field HR management and ③ Advocacy activity, in order for the actual status of MSFJ's activity to be shown with transparency. In view of the less quantitative materiality, "Advertisement" cost are reclassified and included under "Others" (Office rent, travel & depreciation etc.) in terms of ④ Awareness-raising, and Direct mail and newsletter related cost in terms of Fundraising, respectively from this fiscal year. The figures for the previous year are also reclassified accordingly.

5. Changes, balances and breakdown of the endowment and the special funds

A part of the earmarked net assets for Philippines which were received in previous year and classified as "Specific Purpose Funds" in Non-Current Assets were allocated in this fiscal year for operations in the same country. Similarly, a part of the earmarked funds for Ebola emergency accepted in this fiscal year are classified as "Special Purpose Funds" in Non-Current Assets, which funds will be allocated for the operations of the next year.

6. Assets pledged as security

Not applicable

7. Acquisition costs, accumulated depreciations and the carrying amounts of fixed assets at the end of current year

	Acquisition costs	Accumulated depreciation	Carrying amounts at the end of current year
Building structures	28,394,742	17,980,351	10,414,391
Office equipment and fixtures	55,559,586	35,580,896	19,978,690
Furniture	13,634,603	7,278,864	6,355,739
Equipment and fixtures	38,479,578	25,628,921	12,850,657
Video equipment	3,445,405	2,673,111	772,294
Software	49,821,653	46,906,241	2,915,412
Fixed assets without finance lease Total	133,775,981	100,467,488	33,308,493
Leased assets (Donor management system)	63,392,091	61,164,431	2,227,660
Grand Total	197,168,072	161,631,919	35,536,153

8. Balances of major payables at the end of current year

Customers/Vendors	Amount	Customers/Vendors	Amount
MSF Belgium	390,071,514	MSF Spain	144,209,029
MSF France	376,028,685	MSF South Korea	42,484,000
MSF Switzerland	185,250,938	Other domestic vendors	131,100,977
		Total	1,269,145,143

9. Retirement benefits

(1) Outline of the retirement benefit plan

MSFJ has adopted retirement benefit plan in accordance with internal regulations.

(2) Obligation for retirement benefit

Retirement benefits obligation: JPY 18,895,600, Provision for retirement benefit: JPY 18,895,600.

(3) Retirement benefits related expenses: JPY 6,654,400

10. Contingent liabilities

Not applicable

11. Details, name of provider and the current year changes in terms of subvention, etc.

Not applicable

12. Description about the transactions with the related parties

Not applicable

13. Significant subsequent events

Not applicable

14. Financial contribution to MSF operational centers, etc. in 2014

Grants contribution is implemented in compliance with the Resource Sharing Agreement and the Emergency Funding Mechanism for Ebola.

	Donations from individuals(*)	Donations from companies, etc.	Grants from MSF South Korea	Total
Recipients of grants	4,341,221,280	482,357,919	16,730,029	4,840,309,228
MSF France	2,814,325,817	312,702,868	-	3,127,028,685
MSF Spain	837,188,126	93,020,903	-	930,209,029
MSF Switzerland	353,700,000	39,300,000	-	393,000,000
MSF Belgium	336,007,337	37,334,148	16,730,029	390,071,514
MSF International office (for innovation funds)				3,911,915
			Total Grants	4,844,221,143

Remark

1) The classification of "individuals" and "companies etc." is on a pro rata basis.

2) Other than the above, MSFJ sent the grants of JPY 185,250,938 received as deposit from MSF South Korea to MSF Switzerland.

15. Others

In 2014, MSFJ provided MSF South Korea (MSFK) with financial support amounting to JPY 200,695,768. The total revenues of MSFK raised in South Korea in 2014 were JPY 0.26 billion (KRW 2.43 billion). MSFJ received funds equivalent to JPY 208,023,161 to transfer to MSF Switzerland and MSF Belgium for allocation to humanitarian programs operated in Haiti, Niger and Sierra Leone.

必須医薬品キャンペーン Access Campaign

MSF・JICAワクチン
ラウンドテーブル開催Round Table on Vaccination
hosted by JICA and MSF途上国向けのワクチン開発について議論
Discussion on vaccine innovation

世界では、いまだ年間150万人以上の子どもたちがワクチンで予防可能な病気で亡くなっています。既存のワクチンが、常時低温管理を必要とするなど、設備の整っていない途上国での使用に適していないため、必要とする子どもたちに届けることができません。MSF日本は、この問題に日本の関係者とも連携して取り組むべく、2014年8月26日、独立行政法人国際協力機構（JICA）と共催で、「ラウンドテーブルワクチン×イノベーション：日本に何ができるか」を開催、援助現場で直面する課題を指摘し、途上国でも使いやすい製品開発の必要性を訴えました。会議には企業・大学関係者など総勢52人が参加し、日本のイノベーションがどう貢献できるかをめぐり議論を交わしました。

Every year, more than 1.5 million children die of vaccine-preventable diseases. Existing vaccines are not suitable for use in developing countries with limited resources, which makes it difficult to reach the children who need them most. On August 26, 2014, in order to stimulate discussion amongst Japanese stakeholders, MSF Japan and Japan International Cooperation Agency (JICA) co-hosted "JICA-MSF Vaccines Roundtable: Innovation for immunization" to highlight the challenges faced in the field and call for the development of adapted vaccine products suited for use in developing countries. 52 attendees from industry and academia were present at the event and discussed how innovative solutions from Japan could help to address the issues.

海外派遣スタッフ採用 Field HR Recruiting

多角的な方法で採用活動を展開

Developments in recruitment activities
with multifaceted approachesライブ配信で質問にも応じるウェブ説明会
Interactive "Webinar" via live stream

2014年、MSF日本から海外派遣スタッフが活動地へ出発した数は126回となり、前年比で約30%増加しました。また、プログラムの中心的役割を担う活動責任者やプログラム責任者など、コーディネーター職に従事する回数も倍増し、送り出すスタッフのキャリア向上の面でも、大きく成長した1年となりました。

採用活動においては、対象を絞ったアプローチと広範囲な広報を並行して行い、日本の病院とのネットワークづくりと共に、SNSの積極的な利用で広く告知や活動紹介を行いました。また、日本各地で展開する海外派遣スタッフ募集説明会に加えて、英語で行う説明会を開催したほか、全国どこからでも閲覧できるウェブ説明会をライブ配信し、双方向の質疑応答も行いました。

In 2014 MSF Japan facilitated 126 departures of MSF field workers, an almost 30% increase compared to the year before. The success was not only with respect to the number of dispatches, but we also managed to improve career growth for expatriates in MSF, having double number of coordinator positions taken such as the Head of Mission and the Field Coordinator.

In our recruitment activities, MSF Japan made different approaches in parallel. One was to target the focus on an interested audience, such as by creating networks with hospitals. The other was to open doors widely to actively introduce about field activities and recruitment through SNS. We also conducted a variety of recruitment info-sessions all over Japan, as well as English info-sessions and "Webinars," live streaming info-sessions with interactive Q&A.

MSFワールドワイド

2013年の
活動概況と財務

コンゴ民主共和国

国の東部を中心に、武装勢力間の対立により情勢不安が続き、医療の普及を難しくしている。命に関わる予防接種を受けられない子どもも多く、MSFは2013年に122万人にはしかの予防接種を行った。



はしかで重症に陥った子どもを診察するMSFの医師。はしかは治療が遅れると合併症によって子どもの命を奪うこともある。
© Tristan Pfund/MSF

※ P.34, 35, 37は、MSF全事務局の活動を網羅した『MSF ACTIVITY REPORT 2013』（英語版）の抜粋です。
2014年の実績は2015年7月に発表の予定です。

2013年、MSFは67の国と地域で活動しました

2013年、国境なき医師団(MSF)は、67の国と地域で医療・人道援助プログラムを実施しました。多様なニーズに対応すべく、MSFは毎年数多くのプログラムを開始あるいは終了、また、1つの国で複数のプログラムを実施することもあります。活動地では常に状況の変化を観察し、可能な場合には現地保健当局や他のNGOなどにプログラムの引き継ぎを行っています。



ハイチ
不足する外科・産科医療の専門病院を運営



ニジェール
子どもの栄養失調とマラリア予防の対策を支援



■ 活動規模が大きい10の国・地域
■ その他のMSFの活動国・地域



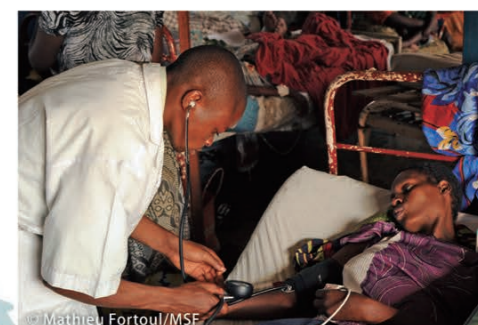
シリア
紛争による避難民への援助、負傷者治療等



南スーダン
スーダン難民キャンプ等で医療不足に対応



ソマリア
紛争による避難民に栄養治療等の医療を提供



コンゴ民主共和国
治安悪化が続く東部地域に基礎医療を届ける

中央アフリカ共和国

避難民キャンプでの医療提供、負傷者治療等



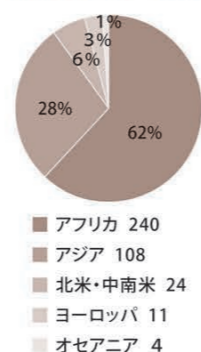
© Camille Lepage/Polaris

MSFの活動概況(2013年実績) ※小数点以下は四捨五入

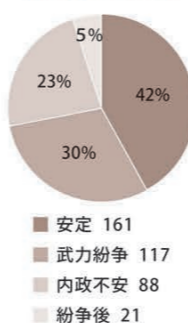
活動規模が大きい10の国(プログラム支出額順)

1. コンゴ民主共和国
2. 南スーダン
3. ハイチ
4. シリア
5. 中央アフリカ共和国
6. ニジェール
7. ソマリア
8. イラク
9. チャド
10. ジンバブエ

大陸別プログラム数



活動地の情勢



MSFのネットワーク(2015年3月現在)

MSFは世界28カ国に事務局を持つ国際的な組織です。本部は存在せず、それぞれの事務局が憲章に基づき、独立して活動を行いながら、緩やかなネットワークで結ばれています。

オペレーション事務局

プログラムの運営を担当し、医療チームを編成・派遣する。パートナー事務局の機能も併設している。

オランダ	スイス	スペイン	フランス	ベルギー
------	-----	------	------	------

パートナー事務局

活動に参加するスタッフを募集・派遣するほか、広報活動、募金活動を行う。

アイルランド	米国	アラブ首長国連邦	アルゼンチン	英国
イタリア	インド	オーストラリア	オーストリア	カナダ
韓国	ギリシャ	スウェーデン	チェコ	デンマーク
ドイツ	日本	ノルウェー	ブラジル	香港
南アフリカ共和国	メキシコ	ルクセンブルク		

MSFインターナショナル

事務局間の調整を行う機関。(スイス)

付属組織

ロジスティックセンター(フランス、ベルギーほか) 物資の購入、管理、輸送を担当し、効率的な援助活動のための物資調達を支える。

エビセンター(フランス) 疫学研究組織。MSFの活動地で得られた医学的情報の分析や調査研究報告などを行う。

MSF結合ベースの活動実績について

国境なき医師団(以下MSF)の5つのオペレーション事務局は、2013年度、67の国と地域で人道援助プログラムを運営しました。個々のプログラムは、MSF日本を含めた19事務局の財政的および人的支援によって支えられています。

こうしたMSFの1年間のグローバルな活動の結果としての財政状態および経営成績は、スイスにあるMSFインターナショナル事務局により、国際財務報告基準に準じた結合ベースの年次報告書『国際版財務報告』としてまとめられ、監査法人であるKPMGおよびErnst & Youngの共同監査を受けた後に公表されています。

この結合ベースの年次会計報告書は、5つのオペレーション事務局の各活動地のプログラムごとの個別の決算数値を取りまとめ、オペレーション事務局を含めた全事務局の個別決算書の結合から、会計監査に至るまでの手続きに時間を要するため、翌事業年度においてMSF日本のウェブサイトにて紹介しています。ここでは、2013年度の結合決算書から抜粋し、要約のための組み替えを行った「財務活動計算書」(いわゆる損益計算書)を掲載します。

『2013年度版 国境なき医師団 国際版財務報告』(英文)はこちらからダウンロードできます。⇒ www.msf.or.jp/library/annualreport/

2013年度 結合ベースMSF「財務活動計算書」(要約)

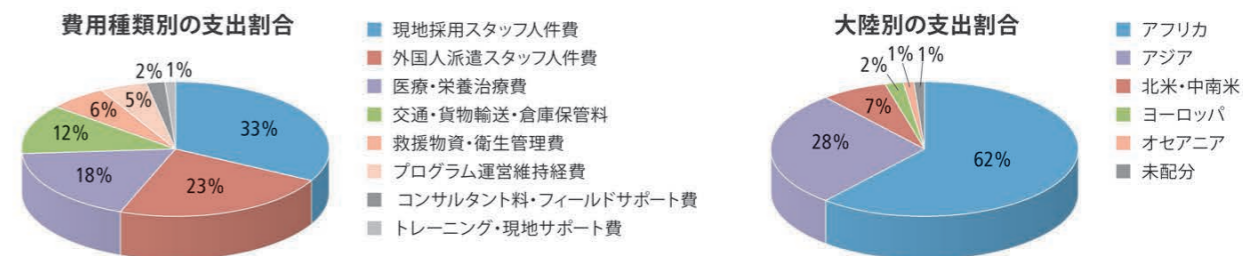
	2013 (千ユーロ)	2012 (千ユーロ)	増減 (千ユーロ)	2013 円換算額(注3) (百万円)
I. 経常収益				
1) 個人支援者からの収入 (MSF日本など全事務局の収入を含む)	787,194	749,872	37,322	102,068
・一般個人寄付	679,289	654,340	24,949	88,077
・遺贈	107,719	95,380	12,339	13,967
・会費	185	152	33	24
2) 民間機関からの寄付収入 (MSF日本など全事務局の寄付収入を含む)	112,513	89,041	23,472	14,588
・一般法人	47,272	35,052	12,220	6,129
・信託・財団等	37,307	25,483	11,824	4,837
・その他	27,934	28,506	△ 572	3,622
1)~2) 計	899,707	838,913	60,794	116,656
3) 公的機関からの収入(注2)	92,968	82,668	10,300	12,054
4) その他収入	15,861	16,065	△ 204	2,057
・利息収入および余資運用益	5,642	7,203	△ 1,561	732
・設備売却および役務提供による収益	3,359	1,670	1,689	436
・物品販売その他による収益	6,860	7,192	△ 332	889
経常収益 合計	1,008,536	937,646	70,890	130,767
II. 経常費用				
1) ソーシャル・ミッション	763,741	762,392	1,349	99,027
■ 援助活動費				
・人道援助プログラム支援費(MSF日本など全事務局からの支援金を含む)	615,362	619,396	△ 4,034	79,788
・各事務局によるプログラム・サポート費	108,807	103,948	4,859	14,108
・その他の人道援助活動費	9,329	7,370	1,959	1,210
援助活動費 合計	733,498	730,714	2,784	95,105
■ 広報活動費	30,243	31,678	△ 1,435	3,921
2) 募金調達活動費	131,646	124,836	6,810	17,069
3) マネジメントおよび管理費	57,101	56,622	479	7,404
4) 所得税	12	87	△ 75	2
2)~4) 計	188,759	181,545	7,214	24,474
経常費用 合計	952,500	943,937	8,563	123,501
為替差損	△ 7,907	△ 4,805	△ 3,102	△ 1,025
差引正味財産当期増減額	48,128	△ 11,096	59,224	6,240

(注1) 上記の計算書は日本で監査を受けたものではない。

(注2) 公的機関には、欧州委員会人道支援事務局(ECHO)、およびベルギー、チェコ、デンマーク、フランス、ドイツ、アイルランド、イタリア、ルクセンブルク、スペイン、スウェーデン、および英国の各国政府等が含まれる。

(注3) 1ユーロ = 129.66円にて換算。

支出内訳 (活動地におけるプログラムおよび調整チームの支出)



活動地域

国/地域	百万ユーロ	(百万円)	国/地域	百万ユーロ	(百万円)	国/地域	百万ユーロ	(百万円)
アフリカ			アジア/中東			ヨーロッパ		
コンゴ民主共和国	78.3	(10,152)	シリア	29.5	(3,825)	ロシア	4.8	(622)
南スーダン	51.1	(6,626)	イラク	20.4	(2,645)	ウクライナ	3.3	(428)
中央アフリカ共和国	26.0	(3,371)	アフガニスタン	18.7	(2,425)	その他*	1.6	(207)
ニジェール	24.4	(3,164)	ミャンマー	16.4	(2,126)	合計	9.8	(1,271)
ソマリア	21.2	(2,749)	フィリピン	15.8	(2,049)			
チャド	20.0	(2,593)	パキスタン	14.2	(1,841)	オセアニア		
ジンバブエ	19.9	(2,580)	イエメン	10.5	(1,361)	バブアニューギニア	4.4	(571)
スーダン	17.1	(2,217)	インド	9.1	(1,180)	合計	4.4	(571)
ケニア	16.9	(2,191)	レバノン	6.3	(817)			
エチオピア	12.0	(1,556)	ウズベキスタン	6.3	(817)	未配分		
マリ	10.6	(1,374)	パレスチナ	3.5	(454)	その他	3.2	(415)
ナイジェリア	10.5	(1,361)	バングラデシュ	3.2	(415)	地域横断的な活動	3.1	(402)
スワジランド	9.9	(1,284)	キルギスタン	3.0	(389)	合計	6.3	(817)
マラウイ	8.5	(1,102)	ヨルダン	2.8	(363)			
モザンビーク	7.8	(1,011)	カンボジア	2.5	(324)			
南アフリカ共和国	7.3	(947)	トルコ	2.3	(298)			
シエラレオネ	6.6	(856)	アルメニア	2.2	(285)			
ギニア	5.8	(752)	タジキスタン	1.7	(220)			
ウガンダ	5.0	(648)	ラオス	1.0	(130)			
モーリタニア	4.1	(532)	イラン	1.0	(130)			
ブルンジ	3.7	(480)	その他*	1.8	(233)			
カメルーン	2.0	(259)	合計	172.4	(22,353)			
エジプト	2.0	(259)						
マダガスカル	1.5	(194)	中南米					
リビア	1.5	(194)	ハイチ	33.3	(4,318)			
コンゴ共和国	1.4	(182)	コロンビア	5.5	(713)			
コートジボワール	1.2	(156)	メキシコ	2.0	(259)			
ザンビア	1.0	(130)	パラグアイ	1.6	(207)			
その他*	1.8	(233)	ホンジュラス	1.4	(182)			
合計	379.1	(49,154)	その他*	0.2	(26)			
			合計	44.1	(5,718)			

*「その他」は、プログラム支出が100万ユーロ(約1億3000万円)以下の国をまとめている。
** 1ユーロ = 129.66円換算
(金額の十万円以下は四捨五入)

スタッフ数

	2013		2012	
スタッフ派遣回数(年間)	6,199	100%	5,955	100%
医師	1,593	26%	1,548	26%
看護師・その他医療従事者	1,892	30%	1,785	30%
非医療従事者	2,714	44%	2,622	44%
スタッフ数 合計	35,032	100%	34,146	100%
現地ポスト数	32,539	93%	31,820	93%
現地採用スタッフ	29,910	85%	29,228	86%
外国人派遣スタッフ	2,629	8%	2,592	7%
事務局職員	2,493	7%	2,326	7%

皆さまのご支援、ありがとうございました

2014年、国境なき医師団(MSF)日本は、28万5223人の個人、1万1388の企業・団体の皆さまよりご支援を頂き、世界各国でのMSFの医療・人道援助活動に資金を提供することができました。苦境に置かれた人びとに私たちが援助を届けることを可能にくださった皆さまのご厚意に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

MSFコーポレートサポーター

株式会社シグマ

プロボノ

モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所

株式会社バス・コミュニケーションズ

ウイングアーク1st株式会社

ゲーグル株式会社

株式会社セールスフォース・ドットコム

日本ヒューレット・パッカード株式会社

デルタ航空会社

マイクロソフト株式会社

ベイン・アンド・カンパニー・ジャパン・インコーポレイテッド

テコラス株式会社

株式会社ファイブドライブ

三和コムテック株式会社

株式会社山梨新報社

モーニングスター株式会社

支援企業・団体

フォーク株式会社

コネクシオ株式会社

一般財団法人 高須克彌記念財団

一般財団法人 かっちゃん基金

株式会社保険見直し本舗

株式会社大和証券グループ本社

新日本管財株式会社 互助会

株式会社CHINTAI

有限会社スクラム

ヤフー株式会社

リンベル株式会社

株式会社ジェーシービー

株式会社特機部

株式会社リクルート住まいカンパニー

三和商事株式会社

大和証券株式会社

大産住宅株式会社

エルメスジャパン株式会社

株式会社エポスカード

株式会社 名優

ソフトバンクグループ

株式会社ケーメックス

株式会社エーゼン

ジャンボパーキング株式会社

株式会社エルエッチエス

有限会社アーク・アソシエイツ

エーエムテクノス株式会社

株式会社ファンキー・ジャム

横山産業株式会社

PLSプレセデンシャル株式会社

一正蒲鋒株式会社

エムスリー株式会社

株式会社ベネフィット・ワン

株式会社リーガルコーポレーション

あらた監査法人

森永乳業株式会社

森乳スマイル倶楽部

全国生活協同組合連合会

ケイヒングループ(京友会)

株式会社スカラベジャパン

株式会社日立インスファーマ

株式会社稲葉電機

有限会社陽照

有限会社ジャイロス

一般社団法人JIR協会

フォーレスト株式会社

プライスウォーターハウスクーパース株式会社

税理士法人プライスウォーターハウスクーパース

大久保内科胃腸科

九段北シティ法律事務所

募金箱・チャリティ等

ピースフル・コンサート越谷 実行委員会

株式会社帝国ホテル

豊島岡女子学園中学校・高等学校

エボラ緊急支援

いすゞ自動車株式会社

ヤフー株式会社

キャノン株式会社

株式会社小笠原プレジジョンラボラトリー

株式会社ニコン

楽天株式会社

(以上、順不同)

個人支援者

井上 桂子

井上 健治・井上 早苗

今泉 多香子

上戸 彩

方波見 重兵衛

河合 平左

河村 方子

北村 真知子

國領 輝子

坂本 泰子

嶋田 千恵子

鈴木 真理

高須 克彌

辻 良雄

寺田 利三

十河 薫

十河 久美子

中辻 憲夫

中村 一子

長谷川 壽夫・長谷川 幸代

長谷川 湧生子

林 暁兵

本坊 雄一

松岡 信子

宗像 節子

山下 徹

山本 和男

葉 國璽

横田 富美子

(以上、敬称略・五十音順)
ほか28万人以上の皆さま

国境なき医師団日本

Médecins Sans Frontières Japan

理事

Board Members

会長

President

加藤 寛幸

Hiroyuki Kato MD

副会長

Vice President

青池 望

Nozomi Aoike MD

副会長

Vice President

渥美 智晶

Tomoaki Atsumi MD

専務理事

Secretary General

森山 秀徳

Hidenori Moriyama MD

会計役

Treasurer

沢田 さやか

Sayaka Sawada

須田 洋平

Yohei Suda

安藤 恒平

Kohei Ando MD

大谷 敬子

Keiko Otani

キム・ナムニョール

Nam Ryeol Kim MD

ジル・デルマス

Gilles Delmas

監事

Controller

黒崎 伸子

Nobuko Kurosaki MD

フレデリック・ヴァラ

Frederic Vallat

事務局長

General Director

ジェレミィ・ボダン

Jérémie Bodin

(2015年3月末現在)

国境なき医師団(MSF)日本は1992年に設立され、1997年にMSFの事務局の一つとして独立組織となりました。1999年に特定非営利活動法人(NPO法人)として東京都の認証を受け、2002年に認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)として国税庁の認定を受けました。2013年7月には、東京都から認定NPO法人として改めて認定を受けました。

活動をご支援ください

国境なき医師団の活動は、皆さまからの寄付で実現しています。私たちと共に、命を救う力となってください。

寄付の申し込み
資料請求は

0120-999-199
(通話料無料 9:00~19:00 無休)
www.msf.or.jp



国境なき医師団日本は「認定NPO法人」として認定を受けています。国境なき医師団日本への寄付は、所得税、法人税などの優遇措置の対象となります。